

(様式第 10)

号  
平成 27 年 10 月 2 日

厚生労働大臣

殿

開設者名学校法人 昭 和 大 学  
理事長 小 口 勝 司 (印)

昭和大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 26 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒142-8666 東京都品川区旗の台1丁目5番8号
氏 名	学校法人 昭和大学 理事長 小口 勝司

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

昭和大学病院
--------

3 所在の場所

〒142-8666 東京都品川区旗の台1丁目5番8号 電話( 03 )3784-8000
--

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<p>① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜</p> <p>② 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜</p>
---

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
① 呼吸器内科 ② アレルギー科 ③ 消化器内科 ④ 循環器内科 ⑤ リウマチ科	
⑥ 代謝内科 ⑦ 内分泌内科 ⑧ 血液内科 ⑨ 腎臓内科 ⑩ 腫瘍内科 ⑪ 感染症内科	
⑫ 神経内科 ⑬ 緩和ケア内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記

入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名	
① 肛門外科 ② 消化器外科 ③ 乳腺外科 ④ 内分泌外科 ⑤ 気管・食道外科	
⑥ 小児外科 ⑦ 形成外科 ⑧ 美容外科 ⑨ 呼吸器外科 ⑩ 心臓血管外科	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

① 精神科 ② 小児科 ③ 整形外科 ④ 脳神経外科 ⑤ 皮膚科 ⑥ 泌尿器科 ⑦ 産婦人科
⑧ 産科 ⑨ 婦人科 ⑩ 眼科 ⑪ 耳鼻咽喉科 ⑫ 放射線科 ⑬ 放射線診断科
⑭ 放射線治療科 ⑮ 麻酔科 ⑯ 救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無					
歯科と組み合わせた診療科名						
1	2	3	4	5	6	7
歯科の診療体制						

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

① リハビリテーション科 ② 泌尿器科 ③ 性病科 ④ 臨床検査科 ⑤ 病理診断科
⑥ 口腔外科

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
床	床	床	床	815床	815床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成27年 4月 1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	512人	427人	597.4人	看 護 補 助 者	8人	診 療 エ ッ ク ス 線 技 師	0人
歯 科 医 師	5人	0人	5人	理 学 療 法 士	13人	臨 床 検 査 技 師	62人
薬 剤 師	73人	0人	73人	作 業 療 法 士	6人	衛 生 検 査 技 師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	0人	そ の 他	0人
助 産 師	47人	人	47人	義 肢 装 具 士	0人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師	2人
看 護 師	903人	13人	910.8人	臨 床 工 学 士	17人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	5人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	そ の 他 の 技 術 員	7人
歯 科 衛 生 士	2人	0人	2人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	116人
管 理 栄 養 士	5人	0人	5人	診 療 放 射 線 技 師	57人	そ の 他 の 職 員	25人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従業者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成27年9月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	14人	眼科専門医	16人
外科専門医	49人	耳鼻咽喉科専門医	18人
精神科専門医	3人	放射線科専門医	17人
小児科専門医	22人	脳神経外科専門医	15人
皮膚科専門医	14人	整形外科専門医	27人
泌尿器科専門医	9人	麻酔科専門医	15人
産婦人科専門医	25人	救急科専門医	5人
		合 計	249人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従業者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	684.7人	0人	684.7人
1日当たり平均外来患者数	1,448.7人	19.0人	1,467.7人
1日当たり平均調剤数			5,174.4剤
必要医師数			158.1人
必要歯科医師数			2人
必要薬剤師数			64.6人
必要(准)看護師数			391.3人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除し

た数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

### 9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	300.36m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	ICU 14床 CCU 5床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 122.95m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 4台		病床数 3床			
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 26.0m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	321.4m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動生化学検査装置 (BM6070)			
細菌検査室	82.3m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動細菌検査装置 (BACTEC FX)			
病理検査室	87.0m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動病理装置 (VIP-6)			
病理検査室	87.0m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動病理装置 (VIP-6)			
研究室	20243.31m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 電子顕微鏡室、動物実験室等			
講義室	5339.77m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数 16 室	収容定員 2593 人		
図書室	1525 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数 1 室	蔵書数 350000冊程度		

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

### 10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成26年4月1日～平成27年3月31日	
紹介率	70.3%	逆紹介率	38.3%
算出根拠	A: 紹介患者の数	17,921人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	11,698人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	3,568人	
	D: 初診の患者の数	30,553人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。





(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	45人	・膿疱性乾癬	4人
・多発性硬化症	16人	・広範脊柱管狭窄症	0人
・重症筋無力症	16人	・原発性胆汁性肝硬変	45人
・全身性エリテマトーデス	232人	・重症急性膵炎	31人
・スモン	1人	・特発性大腿骨頭壊死症	10人
・再生不良性貧血	33人	・混合性結合組織病	38人
・サルコイドーシス	18人	・原発性免疫不全症候群	7人
・筋萎縮性側索硬化症	0人	・特発性間質性肺炎	4人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	120人	・網膜色素変性症	1人
・特発性血小板減少性紫斑病	63人	・プリオン病	1人
・結節性動脈周囲炎	5人	・肺動脈性肺高血圧症	1人
・潰瘍性大腸炎	220人	・神経線維腫症	1人
・大動脈炎症候群	15人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	5人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	0人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	0人
・脊髄小脳変性症	4人	・ライソゾーム病	0人
・クローン病	87人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	19人	・脊髄性筋萎縮症	2人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	29人	・球脊髄性筋萎縮症	0人
・アミロイドーシス	1人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	2人
・後縦靭帯骨化症	13人	・肥大型心筋症	5人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	14人	・ミトコンドリア病	0人
・ウェゲナー肉芽腫症	6人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	10人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	0人	・黄色靭帯骨化症	2人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	10人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



基本診療料に係る施設基準

4:	歯科外来診療環境体制加算
5:	特定機能病院入院基本料 (7対1)
2:	臨床研修病院入院診療加算
2の2:	救急医療管理加算
3:	超急性期脳卒中加算
3の2:	妊産婦緊急搬送入院加算
4:	診療録管理体制加算1
4の3:	急性期看護補助体制加算 (2.5対1)
9:	療養環境加算
10:	重症者等療養環境特別加算
12の3:	無菌治療室管理加算1・2
14:	緩和ケア診療加算
18:	がん診療連携拠点病院加算
20:	医療安全対策加算1
21:	感染防止対策加算1
21の2:	患者サポート体制充実加算
22:	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
22の2:	ハイリスク妊婦管理加算
23:	ハイリスク分娩管理加算 ※平成26年取扱分娩件数1,135件 ※医師数2.9名/助産師数5.2名 (平成26年4月1日現在)
24:	退院調整加算
24の3:	救急搬送患者地域連携紹介加算
26:	呼吸ケアチーム加算
26の3:	病棟薬剤業務実施加算
26の4:	データ提出加算2
第1:	救命救急入院料2
2:	特定集中治療室管理料3 (小児加算)
3:	ハイケアユニット入院医療管理料1
6:	総合周産期特定集中治療室管理料1・2
7:	新生児治療回復室入院医療管理料
10:	小児入院医療管理料1



特掲診療料に係る施設基準

1	ウイルス疾患指導料
1の8	心臓ペースメーカー指導管理料（植込型除細動器移行加算）
2	高度難聴指導管理料
4	糖尿病合併症管理料
4の2	がん性疼痛緩和指導管理料
4の3	がん患者指導管理料 1・2・3
4の4	外来緩和ケア管理料
4の5	移植後患者指導管理料（臓器移植後）
4の6	糖尿病透析予防指導管理料
6	地域連携小児夜間・休日診療料 2
6の3	地域連携夜間・休日診療料
6の4	院内トリアージ実施料
6の6	外来リハビリテーション診療料
6の7	外来放射線照射診療料
7	ニコチン依存症管理料
10	地域連携診療計画管理料
11の2	がん治療連携計画策定料
11の3	がん治療連携管理料
11の5	肝炎インターフェロン治療計画料
12	薬剤管理指導料
12の2	医療機器安全管理料 1
12の2	医療機器安全管理料 2
13	歯科治療総合医療管理料
16の6	持続血糖測定器加算
18	造血器腫瘍遺伝子検査
18の2	HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
19	検体検査管理加算（Ⅰ）
19の2	検体検査管理加算（Ⅱ）
22	心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
22の2	植込型心電図検査
22の3	時間内歩行試験
22の4	胎児心エコー法
22の5	ヘッドアップティルト試験
26の2	神経学的検査
27	補聴器適合検査
29	小児食物アレルギー負荷検査
29の3	センチネルリンパ節生検（乳がんに係るものに限る。）（併用法・単独法）
30	画像診断管理加算 1
30	画像診断管理加算 2
32	遠隔画像診断
34	CT撮影及びMRI撮影
35	冠動脈CT撮影加算
35の2	外傷全身CT加算
35の3	大腸CT撮影加算
36	心臓MRI撮影加算
36の2	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
37	外来化学療法加算 1
37の2	無菌製剤処理料
38	心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
40の2	脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）
42	運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
44	呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
47の2	がん患者リハビリテーション料
57	イソノールの局所注入（甲状腺に対するもの）
57	イソノールの局所注入（副甲状腺に対するもの）
57の2	透析液水質確保加算 2
57の4	一酸化窒素吸入療法
57の9	組織拡張器による再建手術（一連につき）（乳房（再建手術）の場合に限る。）
57の10	骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）
60	脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
61	人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
61の2	内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅴ型（拡大副鼻腔手術）
61の3	上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療以外の診療に係るものに限る。）、下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療以外の診療に係るものに限る。）
61の5	乳がんセンチネルリンパ節加算 1、乳がんセンチネルリンパ節加算 2
61の6	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
62の3	経皮的冠動脈形成術
63	経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
63の2	経皮的冠動脈ステント留置術
63の5	磁気ナビゲーション加算
64	経皮的中隔心筋焼灼術
65	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
65の2	植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
66	両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
67	植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術（レーザーシースを用いるもの）
67の2	両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器交換術
68	大動脈バルーンポンプ法（IABP法）
72の2	経皮的大動脈遮断術
72の4	腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術
72の5	腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術
72の6	ダメージコントロール手術
72の7	腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術
73	体外衝撃波胆石破砕術
73の2	腹腔鏡下肝切除術

74:	生体部分肝移植術
75の2:	体外衝撃波腎石破砕術
75の3:	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
76の2:	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
76の3:	腹腔鏡下小切開副腎摘出術
77:	体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
77の2:	腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎（尿管）悪性腫瘍手術
77の3:	腎腫瘍凝固・焼灼術（冷凍凝固によるもの）
77の4:	同種死体腎移植術
77の5:	生体腎移植術
77の6:	腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術
77の8:	腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術
77の11:	人工尿道括約筋植込・置換術
78の2:	腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
78の3:	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）
79:	医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6（歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。）に掲げる手術
80:	輸血管理料Ⅰ
80:	輸血適正使用加算
80の3:	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
80の4:	内視鏡手術用支援機器加算
81:	麻酔管理料（Ⅰ）
81の2:	麻酔管理料（Ⅱ）
82:	放射線治療専任加算
82の2:	外来放射線治療加算
83:	高エネルギー放射線治療
83の2:	1回線量増加加算
83の3:	強度変調放射線治療（IMRT）
83の4:	画像誘導放射線治療加算（IGRT）
83の5:	体外照射呼吸性移動対策加算
84:	定位放射線治療
84の2:	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
84の3:	保険医療機関間の連携による病理診断
84の6:	病理診断管理加算2
85:	クラウン・ブリッジ維持管理料



## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

単位:円

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
栄養管理サービスの将来予測評価に基づく管理栄養士の人材育成システム構築に関する研究	菅野 丈夫	栄養科	500,000	補	厚生労働省
脳脊髄液減少症の診断・治療法の確立に関する研究	有賀 徹	救急医学	350,000	補	厚生労働省
効果的な熱中症予防のための医学的情報等の収集・評価体制構築に関する研究	三宅 康史	救急医学	4,480,000	補	厚生労働省
頭部外傷におけるPACAPの神経保護作用と機序の解明	宮本 和幸	救急医学	1,200,000	補	文部科学省
内耳機能手術の臨床応用に関する研究	小林 一女	耳鼻咽喉科学	100,000	補	文部科学省
治験の実施に関する研究 [エブレノン]	小林 洋一	循環器内科学	500,000	補	厚生労働省
心血管系を支配する交感神経の抑制性シナプス後電位の性質と役割の解明	箕浦 慶乃	循環器内科学	900,000	補	文部科学省
大腸鋸歯状病変における内視鏡的・分子生物学的診断ツールの開発	小西 一男	消化器内科学	1,100,000	補	文部科学省
肝硬変における記憶B細胞障害の機序	土肥 弘義	消化器内科学	1,700,000	補	文部科学省
HTLV-1 母子感染予防に関する研究:HTLV-1 抗体陽性妊婦からの出生児のコホート研究	板橋 家頭夫	小児科学	6,000,000	補	厚生労働省
母乳のダイオキシン類汚染の実態調査と乳幼児の発達への影響に関する研究	板橋 家頭夫	小児科学	400,000	補	厚生労働省
小児期の食物アレルギーの新しい診断法・管理法の確立と治療法の開発に関する研究	今井 孝成	小児科学	500,000	補	厚生労働省
食物アレルギー耐性誘導のための食生活に関する研究	今井 孝成	小児科学	1,000,000	補	文部科学省
早期の栄養障害が及ぼす脂肪組織代謝変動への活性酸素/窒素ストレスの関与とその制御	土橋 一重	小児科学	800,000	補	文部科学省
小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究	土岐 彰	小児外科学	200,000	補	厚生労働省
Ca負荷によるTRPVを介した血管石灰化メカニズムの解明と治療法の模索	溝渕 正英	腎臓内科学	600,000	補	文部科学省
重症多形滲出性紅斑に関する調査研究	末木 博彦	皮膚科学	1,500,000	補	厚生労働省
日常検査で抗菌薬耐性機構が明らかとならない細菌の耐性表現型と遺伝子型の解析	福地 邦彦	臨床病理診断学	800,000	補	文部科学省
緑内障に伴う網膜の免疫反応とPACAPの保護作用	關 保	眼科学	1,300,000	補	文部科学省
生後の栄養管理で未熟児網膜症発症を予防するための基礎研究	齋藤 雄太	眼科学	1,800,000	補	文部科学省
ペリオスチンをターゲットとした糖尿病網膜症における血管新生メカニズムの解明	齋藤 雄太	眼科学	50,000	補	文部科学省
ペリオスチンをターゲットとした糖尿病網膜症における血管新生メカニズムの解明	植田 俊彦	眼科学	50,000	補	文部科学省

計

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

単位:円

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
標準療法不応の肺がんに有効な新規がんペプチドワクチン療法の開発と創薬展開	白井 崇生	呼吸器・アレルギー内科学	500,000	補	厚生労働省
気管支喘息に対する喘息死の予防や自己管理手法の普及に関する研究	田中 明彦	呼吸器・アレルギー内科学	1,000,000	補	厚生労働省
胎児の高度先駆的診断・治療法の臨床応用に関する研究	関沢 明彦	産婦人科学	2,000,000	委	厚生労働省
妊娠初期の超音波検査と母体血検査を組み合わせた周産期合併症の発症予知の研究	仲村 将光	産婦人科学	1,000,000	補	文部科学省
低出生体重児の発症機序及び長期予後の解明に関する研究	板橋 家頭夫	小児科学	4,650,000	委	厚生労働省
晩婚化に伴う個体発生初期要因変化が児の発達に及ぼす影響の検証:健康教育の視点から	岡井 崇	産婦人科学	400,000	補	文部科学省
ヒトの時間認知機構の解明:健忘症例からの検討	河村 満	神経内科学	10,900,000	補	文部科学省
携帯型情報端末を用いた乳がん治療オリエンテーションプログラムの開発と有効性の検証	渡邊 知映	乳腺外科学	500,000	補	文部科学省
Field In-Field法を用いた短期全乳房照射法の安全性に関する研究	加賀美 芳和	放射線科学	800,000	補	文部科学省
脊髄損傷時における移植骨髄幹細胞と脊髄組織の相互作用の解明	平泉 裕	整形外科	1,200,000	補	文部科学省
近赤外光による非侵襲的子宮内胎児機能診断システムの臨床評価	山越 憲一	整形外科	100,000	補	文部科学省
高齢化した仮設住宅住民の健康状態に関するコホート研究を通じた予防医療政策の検討	大嶽 浩司	麻酔科学	500,000	補	文部科学省
日本の手術医療は効率的で生産性が高いか?	大嶽 浩司	麻酔科学	100,000	補	文部科学省
非侵襲光学的血糖計測法(パルス・グルコメトリ)の実用化のための先駆的開発研究	山越 憲一	整形外科	7,800,000	補	文部科学省
致死性心血管疾患を予防する食事・栄養素の探索研究	木庭 新治	循環器内科学	1,600,000	補	文部科学省
超早産児に対する個別化した強化母乳栄養の臨床的検討	板橋 家頭夫	小児科学	1,200,000	補	文部科学省
妊娠初期の胎盤形成に伴う絨毛細胞のDNAメチル化異常と胎盤機能異常に関する研究	関沢 明彦	産婦人科学	1,700,000	補	文部科学省
B型肝炎ウイルスの感染複製機構の解明に関する研究	森川 賢一	消化器内科学	10,000,000	補	厚生労働省
関節リウマチにおけるフコシル化の機能解析	磯崎 健男	リウマチ・膠原病内科	1,200,000	補	文部科学省
認知症症状に潜む時間要素の解明-時間認知の神経心理学の視点から-	杉本 あずさ	神経内科学	500,000	補	文部科学省
婦人科悪性腫瘍患者における生殖細胞遺伝子変異のシーケンス解析	飯塚 千祥	産婦人科学	1,300,000	補	文部科学省
集束超音波による子宮内胎児低侵襲治療システムの研究開発	土岐 彰	小児外科学	500,000	補	文部科学省

計

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。



(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

### 2 論文発表等の実績

#### (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	別紙参照			
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
～				
70				
～				

計

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

#### (2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

## 別紙 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	松井 泰樹	循環器内科	A case of hypertrophic obstructive cardiomyopathy in which left ventricular remodeling and reverse remodeling were seen with pacing on and off.	J Arrhythmia 2014;30(2):127-129
2	富岡 大	精神神経科	A longitudinal functional neuroimaging study in medication-naïve depression after antidepressant treatment.	PLoS One. 2015;10(3):e0120828
3	小司 久志	感染症内科	A molecular analysis of quinolone-resistant Haemophilus influenzae: validation of the mutations in Quinolone Resistance-Determining Regions.	J Infect Chemother. 2014;20(4):250-255
4	平野 勉	糖尿病・代謝・内分泌内科	Abnormal lipoprotein metabolism in diabetic nephropathy.	Clin Exp Nephrol. 2014;18(2):206-209
5	中野 有也	小児科	Accumulation of subcutaneous fat, but not visceral fat, is a predictor of adiponectin levels in preterm infants at term-equivalent age.	Early Hum Dev. 2014;90(5):213-217
6	本田 浩一	腎臓内科	Active vitamin D analogs, maxacalcitol and alfacalcidol, as maintenance therapy for mild secondary hyperparathyroidism in hemodialysis patients - a randomized study.	Int J Clin Pharmacol Ther. 2014;52(5):360-368
7	渡部 洋実	精神神経科	Altered orbitofrontal sulcogyral patterns in adult males with high-functioning autism spectrum disorders.	Soc Cogn Affect Neurosci. 2014;9(4):520-528
8	佐藤 佳渚子	神経内科/生理学	Amygdala Response During Anticipatory Anxiety in Patients with Tension-type Headache.	Showa Univ J Med Sci. 2015;27(1):39-48
9	林 栄一	消化器内科	Anti-TIM-3 Antibody Prevents Lymphocyte Apoptosis and Enhances Dendritic Cell Cancer Therapy.	Showa Univ J Med Sci. 2015;27(1):1-9
10	森岡 大地	美容外科	Borderline personality disorder and aesthetic plastic surgery.	Aesthetic Plast Surg. 2014;38(6):1169-76
11	繁永 礼奈	乳腺外科	BRCA1/2 Mutation Frequency is HIGH in Japanese Triple-Negative Breast Cancer Patients.	Showa Univ J Med Sci. 2014;26(3):219-227
12	明石-田中 定子	乳腺外科	BRCAness predicts resistance to taxane-containing regimens in triple negative breast cancer during neoadjuvant chemotherapy.	Clin Breast Cancer. 2015;15(1):80-85
13	清野 毅俊	整形外科/生理学	Breathlessness-related Brain Activation: Electroencephalogram Dipole Modeling Analysis.	Showa Univ J Med Sci. 2015;27(1):11-19
14	長谷川 潤一	産婦人科	Cases of death due to serious group A streptococcal toxic shock syndrome in pregnant females in Japan.	Arch Gynecol Obstet. 2015;291(1):5-7
15	林 稔	形成外科	Changes in the blood flow of the femoral artery by botulinum toxin A in rats.	Ann Plast Surg. 2014;73(1):98-101
16	渡辺 則和	消化器内科	Characteristics of head-up tilt testing with additional adenosine compared with head-up tilt testing with isoproterenol and isosorbide dinitrate.	J Arrhythmia 2014;30(6):473-477
17	須山 淳平	放射線科	Clinical Significance of Reverse Redistribution Phenomenon for 201Tl Scintigraphy in Nonischemic Disease.	Showa Univ J Med Sci. 2014;26(2):159-168
18	三輪 裕介	リウマチ・膠原病内科	Combined infliximab and methotrexate treatment improves the depressive state in rheumatoid arthritis patients more effectively than methotrexate alone.	Eur J Rheumatol. 2014;4:147-149
19	木庭 新治	循環器内科	Comment on the 2013 ACC/AHA guidelines on Lifestyle Management to Reduce Cardiovascular Risk by the JAS Guidelines Committee.	J Atheroscler Thromb. 2014;21(5):375-377
20	八木 奈緒美	放射線科	Comparison of 1.5 T (Tesla) and 3.0 T (Tesla) Magnetic Resonance Imaging for Evaluating Local Extension of Endometrial Cancer.	Showa Univ J Med Sci. 2015;27(1):21-28
21	三輪 裕介	リウマチ・膠原病内科	Cytopenia in Rheumatoid Arthritis Caused by Salazosulfapyridine.	Clin Exp Med Sci. 2014;2(3):97-106.
22	緑川 晶	神経内科/中央大学文学部	Detection of residual cognitive function through non-spontaneous eye movement in a patient with advanced frontotemporal dementia.	Front Neurosci. 2014;8:334
23	紺田 健一	消化器内科	Distinct molecular features of different macroscopic subtypes of colorectal neoplasms.	PLoS One. 2014;9(8):e103822

## 別紙 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
24	秋澤 忠男	腎臓内科	Dose-finding study of bixalomer in patients with chronic kidney disease on hemodialysis with hyperphosphatemia: a double-blind, randomized, placebo-controlled and sevelamer hydrochloride-controlled open-label, parallel group study.	Ther Apher Dial. 2014;18 Suppl 2:24-32
25	末木 博彦	皮膚科/昭和大学藤が丘病院皮膚科	Drug-induced hypersensitivity syndrome/drug reaction with eosinophilia and systemic symptoms with histologic features mimicking cutaneous pseudolymphoma.	J Dermatol. 2014;41(9):856-857
26	秋澤 忠男	腎臓内科	Effect of chitosan chewing gum on reducing serum phosphorus in hemodialysis patients: a multi-center, randomized, double-blind, placebo-controlled trial.	BMC Nephrol. 2014;15:98
27	渡邊 荘	耳鼻咽喉科/シカゴ大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Effect of prednisone on nasal symptoms and peripheral blood T-cell function in chronic rhinosinusitis.	Int Forum Allergy Rhinol. 2014;4(8):609-616
28	川嶋 章弘	産婦人科	Effects of maternal smoking on the placental expression of genes related to angiogenesis and apoptosis during the first trimester.	PLoS One. 2014;9(8):e106140
29	西蔵 天人	循環器内科	Elevated small dense low-density lipoprotein cholesterol as a predictor for future cardiovascular events in patients with stable coronary artery disease.	J Atheroscler Thromb. 2014;21(8):755-767
30	和田 幸寛	腎臓内科	Epidermal growth factor receptor inhibition with erlotinib partially prevents cisplatin-induced nephrotoxicity in rats.	PLoS One. 2014;9(11):e111728.
31	岩田 朋之	消化器内科	Evaluation of diagnostic cytology via endoscopic naso-pancreatic drainage for pancreatic tumor.	World J Gastrointest Endosc. 2014;6(8):366-
32	中里 武彦	泌尿器科	Evaluation of Hounsfield Units as a predictive factor for the outcome of extracorporeal shock wave lithotripsy and stone composition.	Urolithiasis. 2015;43(1):69-75
33	永原 敬子	小児科	Evaluation of Phosphorylated Urinary Na-Cl Cotransporter Is Potentially Useful in a Patient With Pseudohypoaldosteronism Type II due to Mutation in CUL3.	Global Pediatr Health 2014;anuary-December 2014 1: 2333794X14552899
34	阿久津 靖	循環器内科/昭和大学附属烏山病院臨床薬理研究所	Five-year follow-up of a giant coronary aneurysm using virtual coronary angiography.	Coron Artery Dis. 2014; 25(8):727-729
35	磯崎 健男	リウマチ・膠原病内科/ミシガン大学内科	Fucosyltransferase 1 mediates angiogenesis in rheumatoid arthritis.	Arthritis Rheumatol. 2014;66(8):2047-2058
36	友安 雅子	糖尿病・代謝・内分泌内科	Glucagon-like Peptide-1 Suppresses the Proliferation and Migration of Vascular Smooth Muscle Cells: Implications for Preventive Effects on Atherosclerosis.	Showa Univ J Med Sci. 2014;26(3):191-199
37	秋澤 忠男	腎臓内科	Impacts of recombinant human erythropoietin treatment during predialysis periods on the progression of chronic kidney disease in a large-scale cohort study (Co-JET study).	Ther Apher Dial. 2014;18(2):140-148
38	松原 倫子	眼科	Influence of the difference of breastfeeding volume on a rat model of oxygen-induced retinopathy.	J Clin Biochem Nutr. 2014;55(2):129-134
39	兼井 彩子	耳鼻咽喉科	Inhibitory action of levocetirizine on the production of eosinophil chemoattractants RANTES and eotaxin in vitro and in vivo.	In Vivo. 2014;28(4):657-666
40	井川 三緒	小児科	Is fat content of human milk decreased by infusion?	Pediatr Int. 2014;56(2):230-233
41	長谷川 潤一	産婦人科	Is maternal anemia associated with small placental volume in the first trimester?	Arch Gynecol Obstet. 2014;289(6):1207-1209
42	田中 明彦	呼吸器・アレルギー内科	Longitudinal increase in total IgE levels in patients with adult asthma: an association with poor asthma control.	Respir Res. 2014;15:144
43	秋澤 忠男	腎臓内科	Low hemoglobin levels and hypo-responsiveness to erythropoiesis-stimulating agent associated with poor survival in incident Japanese hemodialysis patients.	Ther Apher Dial. 2014;18(5):404-413

## 別紙 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
44	新城 梓	産婦人科	Maternal smoking and placental expression of a panel of genes related to angiogenesis and oxidative stress in early pregnancy.	Fetal Diagn Ther. 2014;35(4):289-295
45	丸山 博史	整形外科	Mechanical Strength of the Mayo Clinic Congruent Elbow Plate System for Distal Humerus Fractures: Cadaveric and Model Bone Model.	Showa Univ J Med Sci. 2014;26(4):309-318
46	富岡 幸大	消化器・一般外科/城山病院 消化器外科	Misdiagnosis of Anterior Superior Pancreaticoduodenal Artery Aneurysm Rupture Likely Due to Segmental Arterial Mediolysis: A Case Report.	Showa Univ J Med Sci. 2014;26(4):319-324
47	小司 久志	感染症内科	Molecular Analysis of Levofloxacin-resistant Streptococcus pneumoniae in Japan.	Showa Univ J Med Sci. 2014;26(3):181-190
48	板橋 家頭夫	小児科	New Japanese neonatal anthropometric charts for gestational age at birth.	Pediatr Int 2014;56(5):702-708
49	金田 聡門	腫瘍内科/埼玉医科大学 国際医療センター腫瘍内科	No pharmacokinetic alteration of docetaxel following coadministration of aprepitant 3 h before docetaxel infusion.	Cancer Chemother Pharmacol. 2014;74(3):539-547
50	根本 仁	形成外科/昭和大学藤が丘病院形成外科	Orbital floor reconstruction with ethyl-2-cyanoacrylate.	Ann Plast Surg. 2015;74(2):195-198
51	岩波 明	精神神経科	P300 component of event-related potentials in persons with asperger disorder.	J Clin Neurophysiol. 2014;31(5):493-499
52	宮本 和幸	救急医学科/顕微解剖学	PACAP38 Suppresses Cortical Damage in Mice with Traumatic Brain Injury by Enhancing Antioxidant Activity.	J Mol Neurosci. 2014;54(3):370-379
53	二村 明德	神経内科	Parietal Ataxia: 13 Cases Plus a Review of Relevant Literature.	Showa Univ J Med Sci. 2014;26(4):263-269
54	村上 秀友	神経内科	Perceiving "ghost" images: a unique case of visual allesthesia with hemianopsia in mitochondrial disease.	Neuropsychiatr Dis Treat. 2014;10:999-1002
55	阿部 祥英	小児科	Persistent Leukocyturia Was a Clue to Diagnosis of Cystinuria in a Female Patient.	Global Pediatr Health 2014;January-December 2014 1:2333794X14551275
56	石田 孔子	呼吸器・アレルギー内科	Phase II study of concurrent chemoradiotherapy with carboplatin and vinorelbine for locally advanced non-small-cell lung cancer.	Mol Clin Oncol. 2014;2(3):405-410
57	佐々木 康綱	腫瘍内科/埼玉医科大学 病院臨床腫瘍科	Phase II trial of nanoparticle albumin-bound paclitaxel as second-line chemotherapy for unresectable or recurrent gastric cancer.	Cancer Sci. 2014;105(7):812-817
58	有泉 裕嗣	血液内科	Predictive role of levels of soluble interleukin-2 receptor and C-reactive protein in selecting autologous PBSC transplantation for lymphoma.	Bone Marrow Transplant. 2015;50(2):301-303
59	村瀬 正彦	小児科/シンシナティ小児病院新生児学	Predictors of low milk volume among mothers who delivered preterm.	J Hum Lact. 2014;30(4):425-435
60	扇谷 芳光	放射線科	Preoperative T staging of urinary bladder cancer: efficacy of stalk detection and diagnostic performance of diffusion-weighted imaging at 3T.	Magn Reson Med Sci. 2014;13(3):175-181
61	秋澤 忠男	腎臓内科	Randomized controlled trial of bixalomer versus sevelamer hydrochloride in hemodialysis patients with hyperphosphatemia.	Ther Apher Dial. 2014;18(2):122-131
62	川崎 志郎	循環器内科	Recurrence of Atrial Fibrillation within Three Months after Pulmonary Vein Isolation in Patients with Paroxysmal Atrial Fibrillation: Analysis Using an External Loop Recorder with Auto-trigger Function.	Showa Univ J Med Sci. 2014;26(2):109-119
63	梅村 方裕	リウマチ・膠原病内科	Reduction of Serum ADAM17 Level Accompanied with Decreased Cytokines after Abatacept Therapy in Patients with Rheumatoid Arthritis.	Int J Biomed Sci. 2014;10(4):229-235
64	城井 義隆	リハビリテーション科/昭和大学横浜市北部病院リハビリテーション科	Rehabilitation approaches to dysphagia that was developed for a patient who attempted to commit suicide by hanging: A case report.	Eur J Phys Rehabil Med. 2014;50(2):185-188
65	日比野 聡	小児科	Renal function in angiotensinogen gene-mutated renal tubular dysgenesis with glomerular cysts.	Pediatr Nephrol. 2015;30(2):357-360
66	古荘 純一	精神神経科/青山学院大学教育人間科学部教育学科	Report on Two Cases of Adequate Medical Support System Using the Japanese Version of Kid-KINDL Questionnaire for Children with ADHD.	Showa Univ J Med Sci. 2014;26(3):237-243

## 別紙 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
67	阿久津 靖	循環器内科/昭和大学附属烏山病院臨床薬理研究所	Reversible T-wave inversions and neurogenic myocardial stunning in a patient with recurrent stress-induced cardiomyopathy..	Ann Noninvasive Electrocardiol. 2014;19(3):285-288
68	石井 優	消化器内科	Safety and Utility of Endoscopic Removal of Common Bile Duct Stones in the Elderly.	Showa Univ J Med Sci. 2014;26(2):101-108
69	森岡 大地	美容外科	Self-mutilation by a patient with borderline personality disorder.	Aesthetic Plast Surg. 2014;38(4):812-814
70	高橋 良	リウマチ・膠原病内科	Serum anticyclic citrullinated protein antibody titers are correlated with the response to biological agents in patients with rheumatoid arthritis.	Open Access Rheumatol Res Rev. 2014;6:57-64
71	関本 輝雄	循環器内科	Significance of Coronary Artery Calcium Score in the Target Lesion Evaluated by Multi-detector Computed Tomography for Selecting Treatment of Rotational Atherectomy in Patients with Coronary Artery Disease.	Showa Univ J Med Sci. 2015;27(1):49-59
72	長谷川 潤一	産婦人科	Sonoembryological evaluations of the development of placenta previa and velamentous cord insertion.	J Obstet Gynaecol Res. 2015;41(1):1-5
73	三科 美幸	産婦人科	Sonohysterography is a useful diagnostic approach for uterine arteriovenous malformation.	J Obstet Gynaecol Res. 2014;40(6):1811-1813
74	大塚 久美子	リウマチ・膠原病内科	Steroid-Sparing Effect of Tacrolimus in the Maintenance Phase of Systemic Lupus Erythematosus: A Single-Center, Prospective Study.	Clin Exp Med Sci. 2014;2(3):75-86
75	緑川 晶	神経内科/中央大学文学部	The emergence of artistic ability following traumatic brain injury.	Neurocase. 2015;21(1):90-94
76	今井 孝成	小児科	The skin prick test is not useful in the diagnosis of the immediate type food allergy tolerance acquisition.	Allergol Int. 2014;63(2):205-210
77	長谷川 潤一	産婦人科	The use of balloons for uterine cervical ripening is associated with an increased risk of umbilical cord prolapse: Population based questionnaire survey in Japan.	BMC Pregnancy Childbirth. 2015;15:4
78	ベル 望美	放射線科	The Usefulness of Diffusion-weighted Imaging in Observing Localized Extension of Endometrial Cancer.	Showa Univ J Med Sci. 2014;26(3):229-236
79	宇野 裕和	皮膚科	TNF- $\alpha$ as a useful predictor of human herpesvirus-6 reactivation and indicator of the disease process in drug-induced hypersensitivity syndrome (DIHS)/drug reaction with eosinophilia and systemic symptoms (DRESS).	J Dermatol Sci. 2014;74(2):177-179.
80	押野見 和彦	泌尿器科	Transurethral Resection is an Efficacious Surgical Option for Patients with Prostatic Abscesses that Fail Transrectal Ultrasound-guided Drainage: A Case Report.	Showa Univ J Med Sci. 2014;26(2):175-179
81	廣野 素子	呼吸器外科	Two cases of thymoma with pulmonary metastasis: a case report.	World J Surg Oncol. 2014;12:114.
82	和田 一佐	整形外科	Ultrasound Elastographic Assessment of the Medial Collateral Ligament in the Elbow Joints of Baseball Players.	Showa Univ J Med Sci. 2014;26(4):301-307
83	千葉 正博	小児外科	Urethral caruncle in a 9-year-old girl: A case report and review of the literature.	J Med Case Rep. 2015;28;9:71.
84	山宮 知	消化器内科	Usefulness of Continuous Regional Arterial Infusion with Doripenem and Protease Inhibitors for Severe Acute Pancreatitis.	Showa Univ J Med Sci. 2015;27(1):29-37
85	飯田 直成	形成外科/秋田赤十字病院形成外科	Usefulness of S-shaped Incision in Large Nevus Sequential Excision.	Plast Reconstr Surg Glob Open. 2014;7;2(10):e224.
86	笹森 寛人	放射線科	Utility of apparent diffusion coefficients in the evaluation of solid renal tumors at 3T.	Magn Reson Med Sci. 2014;13(2):89-95
87	川崎 恵吉	整形外科	Variable-angle locking plate with or without double-tiered subchondral support procedure in the treatment of intra-articular distal radius fracture.	J Orthop Traumatol. 2014;15(4):271-274
88	山縣 文	精神神経科	Visual text hallucinations of thoughts in an alexic woman.	J Neurol Sci. 2014;339(1-2):226-228

別紙 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
----	-------	--------	----	-----

計 88件

- (注)
- 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
  - 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)
  - 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
  - 4 「雑誌名」の欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
  - 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 手順書の主な内容 ① 審査機関（委員会）の審査範囲及び申請書類提出窓口について ② 審査申請のための事前準備について ③ 審査申請に必要とされる書類について ④ 申請書類の作成について（参照すべき指針を含む） ⑤ 申請から審査・承認までの流れについて ⑥ 申請から研究実施までのフローチャート ⑦ 研究計画の経過報告及び終了報告について ⑧ 重篤な有害事象及び不具合への対応について ⑨ 研究計画に伴って発生した苦情の窓口について ⑩ 医学部医の倫理委委員会に関する問い合わせ先について	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年10回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
規定の主な内容 ・利益相反の定義について ・利益相反マネジメントの対象者について ・利益相反マネジメントの対象範囲について ・利益相反委員会について ・審議について ・判定の通知について ・異議の申立について ・情報の保護について	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年20～30回

(注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年5回
・研修の主な内容 臨床研究の実施に必要な倫理指針、臨床統計等、その他の知識について教育を行っている。 ①臨床研究の倫理と規制、②臨床試験と観察研究の基礎、③研究倫理に関する最近の話題 ④統計的調整について、⑤「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の概要について	

(注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

初期臨床研修終了後、各科において本学の特色である「チーム医療」を活かした専門的な研修を行っている。  
とくに内科部門においては、内科研修医制度を独自に制度化している。初期臨床研修医終了後の3年目に内科系診療科を目指す者は、1年間内科学講座に所属して日本内科学会の認定内科医資格を取得出来るように資格取得条件としている18症例すべての内容を各領域の診療科長から評価してもらっている。症例不足分野に関しては必要な診療科でのローテーションを義務付けており、初期臨床研修期間を含めた3年間で内科領域に精通し、なおかつ専門分野の知識を有した人材の育成に努めている。

2 研修の実績

研修医の人数	107人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
相良 博典	呼吸器・アレルギー内科	教授	27	
小林 洋一	リウマチ・膠原病内科	教授	37	
平野 勉	糖尿病・代謝・内分泌内科	教授	34	
柴田 孝則	腎臓内科	教授	32	
吉田 仁	消化器内科	教授 (員外)	27	
中牧 剛	血液内科	教授 (員外)	33	
小林 洋一	循環器内科	教授	37	
小野 賢二郎	神経内科	教授	17	
佐々木 康綱	腫瘍内科	教授	34	
斎藤 司	総合内科	准教授	29	
二木 芳人	感染症内科	教授	38	
樋口 比登実	緩和医療科	教授 (員外)	32	
岩波 明	精神神経科	教授	29	
門倉 光隆	呼吸器外科	教授	34	
青木 淳	心臓血管外科	教授	30	
村上 雅彦	消化器・一般外科	教授	33	
中村 清吾	乳腺外科	教授	32	
土岐 彰	小児外科	教授	36	
水谷 徹	脳神経外科	教授	30	
稲垣 克記	整形外科	教授	28	
水間 正澄	リハビリテーション医学	教授	37	
吉本 信也	形成外科	教授	36	
大久保 文雄	美容外科	教授	32	
関沢 明彦	産婦人科	教授	25	
高橋 春男	眼科	教授	36	
板橋 家頭夫	小児科	教授	35	
末木 博彦	皮膚科	教授	34	
小川 良雄	泌尿器科	教授	32	
後閑 武彦	放射線科	教授	33	
加賀美 芳和	放射線治療科	教授	36	
大嶽 浩司	麻酔科	教授	17	
有賀 徹	救急医学科	教授	38	
三宅 康史	救急医学科	教授 (員外)	29	

小林 一女	耳鼻咽喉科	教授	32	
瀧本 雅文	臨床病理診断科	教授	31	
有賀 徹	東洋医学科（代行）	教授	38	
岡松 良昌	歯科・口腔外科	助教	22	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

1. 医療機器安全管理定期講習会
2. がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会
3. がん医療研究会
4. 緩和医療研究会
5. NST勉強会
6. 血液浄化セミナー
7. 医療安全講習会
8. 医薬品・医療機器の医療安全対策
9. 活用しようポケットマニュアル
10. 広域抗菌薬の使用状況
11. 針刺しと体液暴露事例
12. デング熱とエボラ出血熱
13. ナースのための抗菌薬基礎知識
14. 看護師中途採用者感染管理研修
15. 委託職員感染対策講習
16. ナースヘルパー研修

・研修の期間・実施回数

1. 1日・年2回
2. 1日・年2回
3. 1日・年1回
4. 1日・年1回
5. 1日・年8回
6. 1日・年3回
7. 1日・年5回
8. 1日・年1回
9. 1日・年2回
10. 1日・年1回
11. 1日・年2回
12. 1日・年1回
13. 1日・年1回
14. 1日・年3回
15. 1日・年2回
16. 1日・年4回

・研修の参加人数

1. 200名
2. 41名
3. 58名
4. 188名
5. 82名
6. 71名
7. 400～1000名
8. 614名
9. 1059名
10. 448名
11. 788名
12. 540名
13. 39名
14. 32名
15. 155名
16. 90名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

- 1) 医療安全講習会

・研修の期間・実施回数

- 1) 1日・年5回

・研修の参加人数

- 1) 1回につき500名前後

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

1. がん看護専門看護師
2. 感染症看護専門看護師
3. がん性疼痛認定看護師
4. 糖尿病認定看護師
5. 救急看護認定看護師
6. 小児救急看護認定看護師
7. サードレベル
8. 母性看護専門看護師
9. 脳卒中リハ認定看護師

・研修の期間・実施回数

1. 2週間・年1回
2. 10日間・年1回
3. 5週間・年1回
4. 6週間・年1回
5. 6週間・年1回
6. 6週間・年1回

7. 1日間・年1回
8. 4週間・年1回、2週間・年1回
9. 4週間・年1回

・研修の参加人数

1. 1名
2. 2名
3. 2名
4. 2名
5. 2名
6. 2名
7. 1名
8. 2名
9. 3名

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告においては、平成二十六年四月以降の実績（計画）を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

## (様式第 5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	病院長 有賀 徹
管理担当者氏名	管理第二課 浅川 悦久

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		病院日誌は管理第一課、それ以外は診療録管理室に保管	病院日誌は各年度ごとに保管。それ以外は1患者1ファイル及び1ジャケットまたは、1診療録単位に診療記録をファイリングし外来・入院・X線写真を区分して保管している。	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	人事課		
	高度の医療の提供の実績	医事課		
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課		
	高度の医療の研修の実績	管理第一課		
	閲覧実績	診療録管理室		
	紹介患者に対する医療提供の実績	薬局		
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療安全管理部門		
	第規一則号第一に掲げる十の体制第一項保各の号状及び第九條の二十第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部門	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部門	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部門	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部門		
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部門		
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療安全管理部門		
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部門		
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部門		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の	院内感染のための指針の策定状況	各診療科、部門、病棟、外来、検査室の院内感染防止対策基本マニュアル内に保管
	十一	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理部門
	第一	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理部門
	項	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理部門
	各号及び	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	管理第一課および薬局
	第九	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	管理第一課および薬局
	条の	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	管理第一課および薬局
	二十三	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	管理第一課および薬局
	第一	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	管理第一課および放射線室
	項	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	管理第一課および放射線室
第一	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	管理第一課および放射線室	
号に	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	管理第一課および放射線室	
掲			
げ			
る			
体			
制			
の			
確			
保			
の			
状			
況			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状	
閲覧責任者氏名	診療録管理室長 板橋 家頭夫		
閲覧担当者氏名	管理第二課長 浅川 悦久		
閲覧の求めに応じる場所	診療録管理室他		
閲覧の手続の概要 病院長宛の依頼文書にもとづき、管理課から診療録管理室に必要とする診療記録の準備を依頼する。準備後、管理課から依頼者へ手続き等の連絡をおこない閲覧を実施する。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	2件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	1件
	地方公共団体	延	1件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容：1) 医療安全に関する基本的な考え方 2) 安全管理の体制確保 3) 医療事故等の院内報告制度 4) セーフティマネージャーの配置 5) 職員研修の実施 6) 医療事故対応マニュアル 7) 患者からの相談への対応 8) その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年12回
・ 活動の主な内容：医療事故等の防止、安全管理体制の確保	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年5回
・ 研修の主な内容： 4月25日 テーマ「活用しようポケットマニュアル」 参加者1059名、DVD視聴212名 6月24日 テーマ「医薬品の安全管理」 参加者788名、DVD視聴210名 9月10日 テーマ「医療ガス事故事例」 参加者540名、DVD視聴214名 10月23日 テーマ「医療機器の安全管理」 参加者614名、DVD視聴157名 1月26日 テーマ「感染対策/医療ガス/個人情報」 参加者448名、DVD視聴139名	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： インシデント事例は、テーマ別分科会において横断的に編成された分科会委員(各部署リスクマネージャー)により検討され、分析・改善策についてMSM委員会へ報告される。MSM委員会での報告に基づいて医療事故の防止対策業務改善の検討及び推進を図る。 アクシデントについては、医療安全・管理対策委員会において問題点の分析と対応及び改善策を検討する。問題点の分析及び改善策は、各種委員会で報告する。	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有(4名)・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(5名)・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
・ 所属職員：専任(4)名 兼任(14)名 ・ 活動の主な内容：1) 医療安全対策の推進に関すること。 2) 医療事故に関する報告窓口業務。 3) 医療事故に関する初期情報収集と対応。 4) 医療事故等の原因究明と必要な指導を行うこと。 5) 医療安全管理について職員への教育及び周知徹底業務。 6) 医療安全管理・対策委員会の議事録に関する業務。 7) 訴訟に関する業務。 8) 当該事故関係医療従事者を支援すること。	

⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無
--------------------------------------	-----

(様式第6)

### 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>指針の主な内容：指針の主な内容：基本的な考え方、病院感染防止の体制確保（感染管理部門、院内感染防止対策委員会の設置、委員会の開催、医療関連感染が発生した場合の対応）、病院感染等の院内報告制度、感染リンクドクターと感染リンクナーズの配置、職員研修の実施、その他感染防止対策の推進のために必要な基本方針（マニュアルの周知、医療安全管理細数委員会との連携、指針の閲覧に関する方針）</li> </ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>病院内で発生した感染症と薬剤耐性菌、職員の針刺し事例について報告</li> <li>ICT環境ラウンドとAST（抗菌薬適正使用支援チーム）ラウンド実施と改善状況の報告</li> <li>広域抗菌薬（抗MRSA薬、カルバペネム系抗菌薬など）薬使用状況の報告</li> <li>ICT調査事例や改善支援事例の報告</li> <li>講習会の開催案内と実施状況（出席状況）の報告</li> <li>マニュアル、指針、委員会規定の見直しと改訂について検討</li> <li>手洗いキャンペーンや手指衛生に関連した製品の選定と評価</li> </ul> </li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年5回
<ul style="list-style-type: none"> <li>研修の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> <li>活用しようポケットマニュアル</li> <li>針刺し、血液・体液曝露事例</li> <li>流行性角結膜炎の二次感染予防</li> <li>多剤耐性緑膿菌と多剤耐性アシネトバクターについて</li> <li>広域抗菌薬の使用状況</li> </ol> </li> </ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</li> </ul> <p>医師や看護師、病院内で勤務する者は、患者や職員の感染症発生時または感染症が疑われる場合、感染管理部門に連絡する。感染管理部門は情報収集と感染予防策の確認や指導、検討を行い、拡大予防と原因の調査を行う。これらの情報をまとめ、毎月院内感染防止対策委員会で事例と対策の実施状況を報告し、情報共有を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>サーベイランスを実施し感染症や薬剤耐性菌の検出率、手指衛生の遵守率、手指消毒薬の使用状況のベースラインを把握する。感染症発生の早期発見と感染予防策の改善に役立てている。また、定期的に環境ラウンドや抗菌薬適正使用ラウンドを行い、改善支援や評価とフィードバックを継続している。</li> </ul> </li> </ul>	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
<p>・ 研修の主な内容：医薬品の安全使用について、医薬品・医療機器等安全性情報報告制度のリマインド、メディナビ登録の推奨など。</p> <p>全職員対象： 1) 医薬品・医療機器等安全性情報報告制度 2) 医薬品副作用 (Infection Control Forum) 3) 医薬品の安全使用 4) インシデント事例の分析・対策</p> <p>新臨床研修医対象： 1) 医薬品の安全管理と適正使用 2) 医薬品適正使用のための取扱いと注意事項</p> <p>新任看護師対象： 1) 医薬品の安全使用 2) 薬剤の基礎知識、注意点 3) 医療用麻薬・向精神薬などの重点管理薬について</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (○有・無)</p> <p>・ 業務の主な内容</p> <p>第1章 教育・研修 第2章 事故発生時の対応 第3章 外来および入院患者への医薬品の使用と管理 第4章 医薬品情報の収集・管理・提供 第5章 医薬品の採用 第6章 医薬品の管理 第7章 当院における医薬品の適正使用の管理 第8章 薬剤管理指導 第9章 他施設との連携 第10章 放射性医薬品の安全管理・安全使用 第11章 院内製剤の調製および使用に関する事項</p> <p>・ 業務の実施状況：毎月、薬剤部セーフティマネージャーと医薬品安全管理責任者が上記業務内容を巡視し確認。院長巡視に同行し実施状況の確認をしている。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (○有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： 厚生労働省ホームページ、PMDAメディナビ、製薬企業MR、卸業者またはDSU等より収集。 医薬品情報を吟味し、昭和大学医薬品集へのUpdate、またDIニュース等で適宜情報発信。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： テーマ別分科会で誤薬・誤注射の対策検討。 薬局・病棟等でのヒヤリ・ハット事例の収集・分析と対策の実施。例えば、小児の処方では、成人量の上限を超えると医師入力画面にオーダ警告が出るようにした。また、観血的操作時に休薬が必要な医薬品については、持参薬確認時点で休薬情報を持参薬確認票に自動表示するようにした。</p>	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年3回
・ 研修の主な内容： 人工呼吸器、除細動器、輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニタの安全使用のための研修を行っている。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 (有)・無 ) ・ 保守点検の主な内容： 重要8品目 (リニアック、RALS、閉鎖式保育器、γセルエラン、除細動器、血液浄化装置、人工心肺装置、人工呼吸器) および、シリンジポンプ、輸液ポンプの保守管理を行っている。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有)・無 ) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 毎月、医療機器安全NEWSを発行し、PMDAより報告される医療機器の回収・改修情報や院内における重要管理医療機器の紹介、医療機器の使用方法、医療機器の取り扱いなど注意事項のお知らせを行っている。	

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期 ・ 病院機能評価 財団法人日本医療機能評価機構 (救急医療機能含む) 2015年3月6日認定 ・ 臨床研修医評価 NPO法人卒後臨床研修評価機構 2015年1月1日認定	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・ 情報発信の方法、内容等の概要  HPに記載 ( <a href="http://www.showa-u.ac.jp/SUH/index.html">http://www.showa-u.ac.jp/SUH/index.html</a> )。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要  内科医師、外科医師、薬剤師、看護師が診療にあたるよう「センター化」を行い、複数の診療科をはじめ、多くの医療従事者が一人の患者に関わることで「チーム医療」を実現している。	

(様式第 8)

号  
平成 27 年 10 月 2 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 昭 和 大 学  
理事長 小 口 勝 司 (印)

昭和大学病院の紹介率及び逆紹介率の向上に関する年次計画について

標記について、医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 20 第 6 号口及び第 7 号口の規定に基づき、次のとおり提出します。

記

1 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算 定 期 間		平成26年4月1日～平成27年3月31日	
紹 介 率	70.3%	逆 紹 介 率	38.3%
算 出 根 拠	A：紹 介 患 者 の 数	17,921人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	11,698人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	3,568人	
	D：初 診 の 患 者 の 数	30,553人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に 100 を乗じて小数点以下第 1 位まで記入すること。  
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に 100 を乗じて小数点以下第 1 位まで記入すること。  
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

2 紹介率及び逆紹介率向上のための基本方針と向上のための具体的な予定措置

厚生労働省の指針に沿って、地域の基幹病院・特定機能病院として、高度急性期医療の提供を今まで以上に発揮していく必要がある。また、高度な医療を必要とする紹介患者を増加させるため、紹介患者を紹介元医療機関に戻す基本ルールを忠実に実践していきながら、地域の医療・介護・福祉と有機的な連携を進め、紹介率逆紹介率向上に努めていく。

- ① 紹介状を持参した患者は、必ず紹介元に逆紹介しているかを定期的に検証している。
- ② 受付時に「逆紹介される旨」の包括同意の文章を作成し掲示。
- ③ 「2人主治医制」のパンフレットを作成し、初診患者へ配布。
- ④ 地域医療連携協力機関制度を（当院独自の紹介制度）を活用し、連携先を確保する。

平成27年度の病院目標として紹介率70%以上、逆紹介率40%以上を掲げ、病院全体で取り組みを進めていく。

(注)「紹介率」又は「逆紹介率」のうち、承認要件を満たしていないものについてのみ記載すること。

### 3 年次計画

#### (1) 紹介率

計画期間	平成 年 月 日	～ 平成 年 月 日		
年次目標紹介率	第1年度 (平成 年度)		・	%
	第2年度 (平成 年度)		・	%
	第3年度 (平成 年度)		・	%
	第4年度 (平成 年度)		・	%
	第5年度 (平成 年度)		・	%

(注)「紹介率」が、承認基準を満たしていない場合についてのみ記載すること。

#### (2) 逆紹介率

計画期間	平成27年10月1日	～ 平成28年3月31日		
年次目標紹介率	第1年度 (平成27年度)			55.0%
	第2年度 (平成28年度)		・	60.0%
	第3年度 (平成 年度)		・	%
	第4年度 (平成 年度)		・	%
	第5年度 (平成 年度)		・	%

(注)逆紹介率が、承認要件を満たしていない場合についてのみ記載すること。

(様式第 8)

号  
平成 27年 10月 2日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人昭和大学  
理事長 小口 勝司 (印)

昭和大学病院の昨年度の業務報告において提出した年次計画の経過について

標記について、医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の20第6号口及び第7号口の規定に基づき、次のとおり提出します。

記

1 提出した年次計画の項目

1 紹介率・逆紹介率 2 標榜する診療科 3 専門の医師の配置 4 論文発表

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○を付けること。

2 昨年度および今年度の実績

昨年度提出した年次計画書での報告事項 (実績及び予定措置)	今年度の実績及び承認要件を満たしていない場合の理由
平成 25 年度実績 ・ 紹介率 68.9% ・ 逆紹介率 34.7%  厚生労働省の方策にのっとり、地域の基幹病院として、急性期医療の提供に今まで以上に特化する必要がある。そのためには、地域医療機関との医療連携を活発化することが急務であり、紹介、逆紹介の更なる充実が望まれる。特に逆紹介が円滑に機能することで地域の医療機関と相互に機能分担し地域完結型医療を実践する。 ① かかりつけ医制度を患者及び職員に理解させ、地域の医療機関に逆紹介する。 ② 日常生活の中で治療に専念できるなど、逆紹介の利点について患者に広報する。 ③ 患者情報が双方の医療機関で共有できていることを説明し、安心を担保する。 ④ 紹介状を持参した患者は、必ず紹介元に戻す事を徹底する。 ⑤ 地域医療連携協力機関制度(当院独自の紹介制度)を活用し、連携先を確保する。  以上の具体策を病院の最優先事項と位置づけ実践し、26 年度末には逆紹介率 35%、27 年度末には逆紹介率 40%を達成する。	平成 26 年度実績 ・ 紹介率 70.3% ・ 逆紹介率 38.3%  患者自身が大病院志向であることや大学病院の医師を「かかりつけ医」と思い込んでいることから、逆紹介に対する抵抗があると考え。そのため、逆紹介に関する掲示の強化などを実施したが不十分であり、患者に対して十分な理解が得られなかったと考える。 また、医療従事者についても「紹介元に逆紹介する」という基本ルール解釈が統一されていないことや認識していない場合が多数見受けられた。さらに地域医療機関と役割分担や機能連携の重要性に対する理解についても浸透していないことや指導できていないことが理由として挙げられる。

(注) 1 左欄には、昨年度の業務報告において様式第 8 として報告した事項を記載すること。

2 右欄には、今年度の実績及び、承認要件を満たしていない場合はその理由を記載すること。

### 3 今後の具体的措置

厚生労働省の指針に沿って、地域の基幹病院・特定機能病院として、高度急性期医療の提供を今まで以上に発揮していく必要がある。また、高度な医療を必要とする紹介患者を増加させるため、紹介患者を紹介元医療機関に戻す基本ルールを忠実に実践していきながら、地域の医療・介護・福祉と有機的な連携を進め、紹介率逆紹介率向上に努めていく。

- ① 紹介状を持参した患者は、必ず紹介元に逆紹介しているかを定期的に検証している。
- ② 受付時に「逆紹介される旨」の包括同意の文章を作成し掲示。
- ③ 「2人主治医制」のパンフレットを作成し、初診患者へ配布。
- ④ 地域医療連携協力機関制度を（当院独自の紹介制度）を活用し、連携先を確保する。

平成27年度の病院目標として紹介率70%以上、逆紹介率40%以上を掲げ、病院全体で取り組みを進めていく。

(注) 本年度も承認要件を満たしていない場合、2で記載した事項以外の更なる措置を記載すること。